

事例研究報告

**特別支援学校高等部の生徒に
時計を見て10分後の時刻を
答えることを教える**

保護者の願い

「時計を読めるようになってほしい」



時計を読めるようになれば、
生活の質も高まり、就職にもつながる。
どうしたらいいんだろう。

生徒の実態

- 知的障がいのある高等部の女子

＜時計の学習に関する実態＞

- 1桁の足し算は指を使って計算できる。
- 2桁の足し算は筆算か電卓を使ってできる。
- 時計を見て、〇時〇分は答えることはできる。
- 時計を見て、〇分は5とびでよむことができる。
- 5分単位であれば、時計の模型を使って5分後、10分後、15分後、20分後...を答えることができる。
- 時間が繰り上がった計算はできるときとできないときがある。
- 10分後の計算は紙に「〇+10」とかいて筆算で計算をすることが多かった。

教員の考え

「時計を読めるようになって欲しい」

「効率よく教えたい」



アドバイザーからの助言

指導目標の行動要素をリストアップし、実態把握を行い、できるようになったことを「**スモールステップ**」で積み上げましょう。

そして、まずは「**正確**」に、次に「**流暢**」にできるようになるまで練習することから始めましょう。



指導目標の見直し

アドバイザーの先生から助言を受け、「〇分後の時刻がわかる」課題ができるようになるための行動要素をリストアップし、これらを一度に教えず、できるようになったらスモールステップで教えるように見直した。

【長期目標】

アナログ時計を見て、〇分前や〇分後
を分単位で答えることができる。

【短期目標・指導目標】

時計が示す時刻を見て10分後の時刻
を答えることができる。



行動要素をリストアップ

指導目標のリストアップ

授業で指導できるように、そして指導の成果が確認できるように、指導目標を行動要素としてリストアップし、より具体的な標的行動として書き出しました。

○	時計を見て時刻(○時○分)がわかる。
○	長針を見て、○分がわかる。
○	短針を見て、○時がわかる。
×	1時間は60分であることがわかる。
○	長針が12を過ぎると○時が1つ進むことがわかる。
×	時計を見て時刻を3秒程度で答えることができる。
○	「○分後」は長針が何メモリ進むかわかる。
○	5とびで数字を言うことができる。
×	10とびで数字を言うことができる。

記録方法と記録

指導の成果を確認するために、標的行動がどのくらいできるようになったかを記録する方法を決めました。

そして指導を始める前に、どのくらい標的行動が実行されているかを、記録しました(これを「ベースライン」の測定と言います)。

- ・学習に用いる時計プリントの解答にかかった時間と正答数を記録しました。

指導1, 2: 行動要素をリストアップし, スモールステップ

【指導1】

・次のような指導計画を立て、10/14～2/22の間に実施しました。

時計を見て時刻を3秒程度で答えることができるよう、反復学習をしました。

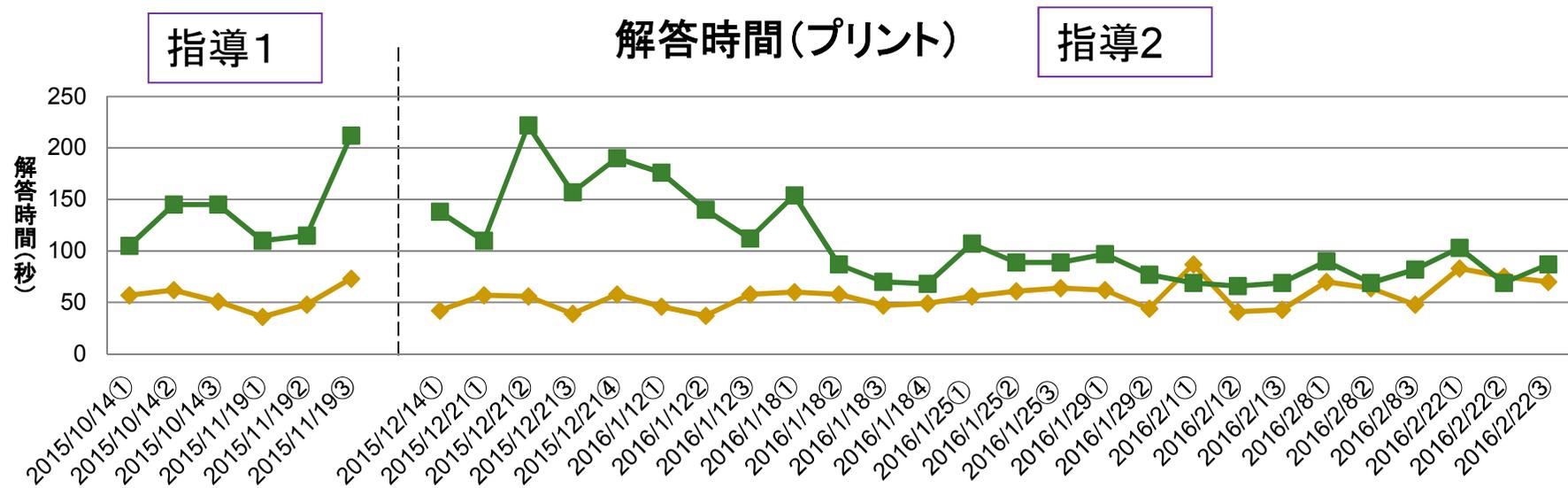
- ・時計の模型で示した時刻を読む。
- ・時計のプリント学習で、提示された時刻と10分後の時刻を答える。

【指導2】

- ・10とびで数字を書く・読むの学習をしました。

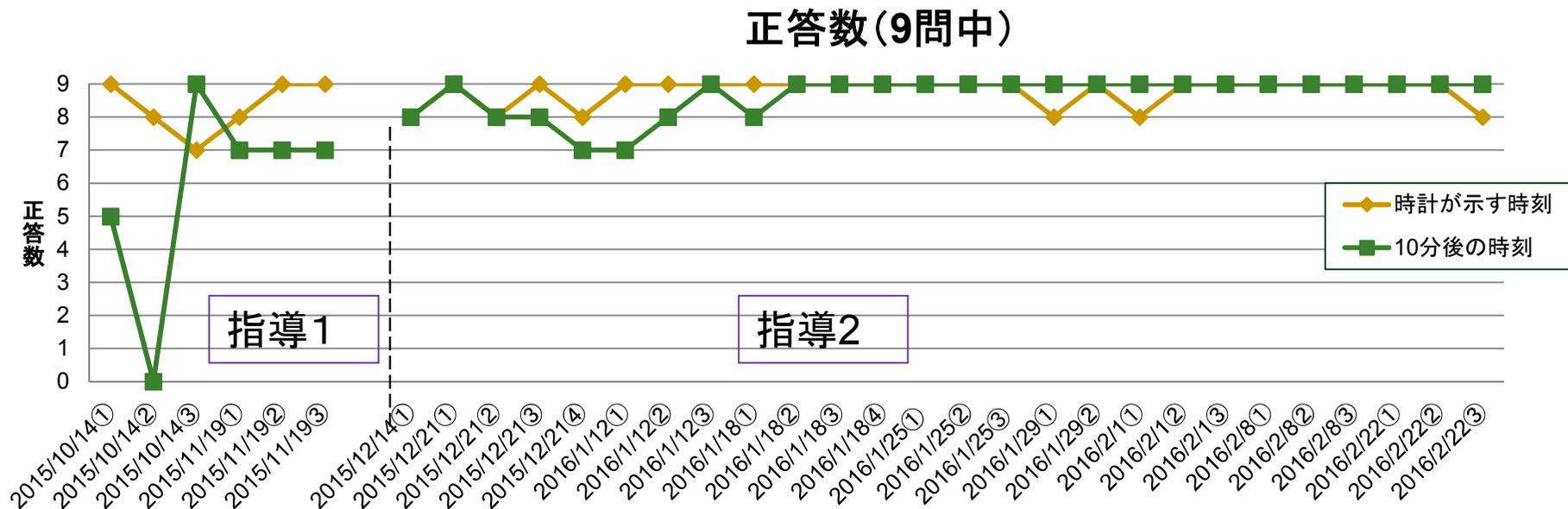
指導1, 2の成果

最初は、正答数が安定せず、解答にかかる時間も2分以上であったが、「時計の模型で示した時刻を読む。」「時計のプリント学習で、提示された時刻と10分後の時刻を答える。」の学習を繰り返し行うことで、7問以上正答できるようになりました。



指導1, 2の成果

10とびの学習をし、10とびで数字を言えるようになるると解答時間が短縮し、正答数も8問以上になりました。まずは正確にできるようになり、それが流暢にできるようになってから、次の学習に進むことで学習の般化が進みました。学習の習得にはこのようなステップを踏んでいく方が効率的に学習を進められることが実感できました。



ここが成功のポイント



○10分後の時刻がわかるために必要な行動要素をリストアップして、できることと、できないことを把握する。

○正確にできるようになったら、次は早く(流暢に)できるように練習する。